

平成 27 年 8 月 25 日

東京 2020 パラリンピック競技大会  
開幕5年前を迎えて

(公財)日本障がい者スポーツ協会  
日本パラリンピック委員会  
会長 鳥原 光憲

当協会では、2013 年に「障がい者スポーツの将来像(ビジョン)」を発表し、2020 年、2030 年の具体的目標を立てアクションプランの推進に取り組んでいます。ビジョンのめざすところは、障がい者スポーツの振興を通じた共生社会の実現ですが、ビジョンの諸施策を着実に実行していくことが東京パラリンピックの大成功につながり、また、東京パラリンピックの大成功が、ビジョンの実現を加速させるものと確信しています。

本日、東京 2020 パラリンピック競技大会開幕5年前という節目を迎え、気を引き締め、東京パラリンピックの大成功を期して特に以下の課題に全力で取り組んでいきます。

(1) 競技力向上

日本代表選手が最高のパフォーマンスを発揮し、メダルランキング上位(金メダルランキング7位以上)に躍進することを目標に競技力向上を図ります。特に強化費の拡充、競技団体の基盤整備、強化拠点の整備、指導者の確保等について、行政、企業、日本オリンピック委員会をはじめとする関係諸団体との連携を深め推進していきます。

(2) チケット完売、全競技会場満員

チケットが完売し、全競技会場が満員の観客で埋め尽くされるようにするためには、地道なパラリンピックのファンづくりをオールジャパンで展開する必要があります。①特に小中学生を中心とした若い世代の人々の理解、関心を高めることが大で、学校教育や様々なスポーツイベントの機会を活用して、体験会や選手との交流機会を増やしていきます。②また、企業によるサポート(スポンサーシップ、アスリート雇用、社員ボランティア等)の拡大を通じたファンづくりを進めます。③これらのためにも障がい者スポーツの認知度向上に努めます。

全国的かつ効果的な啓発活動を推進していくためには、メディアの力が不可欠で、競技の生中継などを多く取り入れながら、障がい者スポーツの魅力や価値を積極的に発信していただけるよう、報道機関に働きかけていきます。

(3) 最高の競技環境の整備

施設・運営両面において最高の競技環境を整えることは大会成功の大前提です。特にアクセシビリティの確保については、パラリンピックの開催における最も重要な課題であり、世界のモデルとなるようなアクセシビリティの高い大会となるよう、組織委員会をはじめ関係機関と協力して取り組んでいきます。